



第3話

「白雪姫」裁判



被告人 **王妃**

事件の争点

被告人は、王妃。白雪姫の美しさに嫉妬を募らせていた王妃は、白雪姫に毒リンゴを食べさせ殺そうとした。しかし、王妃は犯行を全面否定。「白雪姫に会いに行ってなんかいない！」王妃は白雪姫を殺そうとしたのか？それとも無実なのか？



裁判員の考える**判決**



裁判員 **大平まみ** (工藤綾乃)

私は、王妃は「有罪」だと思います。一番の決め手は、狩人の証言です。狩人は、王妃から白雪姫を殺せと命じられたことをはっきりと覚えています。そして、王妃には、深い嫉妬から白雪姫をいじめていたという過去があります。また、犯人の高笑いが王妃の声だったと白雪姫は言っています。意識が遠のく中でのあいまいな記憶かもしれないけど、昔から本当に恐ろしいと感じていた声とか音に、人間は敏感に反応すると思います。